

＜第3回 昔々の成木＞ 吹上トンネル その1

私たちが日頃利用している「吹上トンネル」ですが、昔は吹上峠と言われ、成木地区の交通の要でした。

【文政の切通し】

文政11年（1828）北小曾木村や上成木村から師岡まで、石灰（いしばい）を運搬する牛馬が通行しやすいように、この峠の頂上部を約9畝掘り下げ、切通しとしました。（切通しとは、穴を掘るのではなく、通れるように岩などを削って作った道のことです）

今でも通ることができるようですが、険しい山道です。

【初代吹上トンネル開通】

初代吹上トンネル（吹上隧道）は、明治37年（1904）8月に開通しました。平成21年（2009）からは崩落の危険もあるため塞がれており、通ることができません。東京初の道路トンネルであり、ここを人馬が往来していました。当時は峠に茶屋があったことから、多くの人が使っていたのかもしれませんが。

私の母は、この道を自転車に乗って学校まで通っていたそうですが、とてもじゃないですが、私には自転車で峠を越える自信はありません。

【二代目吹上トンネル開通】

昭和28年（1953）昭和トンネルこと「旧吹上トンネル」が完成しました。初代吹上トンネルの下を掘削して作ったトンネルは平成5年（1993）まで利用されました。私も若い頃、成木に通う時に利用していましたが、ものすごいヘアピンカーブがあり、バイクで通る時は難儀したものです。現在でも徒歩でなら歩けるようになっています。*1 青少対の夏の企画でも歩きましたが、自動車の往来もなく気持ちのよい散歩道となっています。

【三代目吹上トンネル開通】

現在の吹上トンネルは平成5年から現在まで利用されています。二代目吹上トンネルを使っていた方は、「なんて通りやすいんだろう」と思ったに違いありません。道も広くなり、歩道もあるトンネルに驚いたのを覚えています。

開通に伴ってか、坂下橋の袂にあった駐在所が移転し、入口付近にはお店も出来ました。



江戸時代から吹上峠を多くの人が行き交っていたことを想像すると、ちょっと楽しくなります。トンネル近くの信号機に止まった際は、視線を上げてみてはいかがでしょうか。

【注釈】*1 青少対策成木地区委員会（今年度より青少年健全育成成木地区委員会）

【出典】『新たなる出発 閉校記念誌（第八小学校）』（1996）

『多摩川・成木の歴史と成木川』（1998）

【監修】若林 博司